

第3回 鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会

日 時 令和2年9月11日（金）

午前10時00分～

場 所 本庁舎3階 303会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 報 告 欠席者及び委員以外の出席者

4 懇談内容

笠原小学校の今後の方向性について

5 その他

6 閉 会

笠原小学校 5・6 年生保護者との意見交換会 主な意見・質問と回答

日時：7 月 9 日（木）午後 6 時 30 分～7 時 30 分

場所：笠原公民館

主催：笠原小学校 PTA

参加者：8 名

出席者：笠原小学校 PTA 会長、顧問

齊藤教育部長、清水副部長、大島副部長兼学務課長、鳥沢課長、藤平副課長、
新井副主査

1. 開会

2. 挨拶（PTA 会長・教育部長）

3. 資料説明

（1）鴻巣市立小・中学校通学区域審議会後の経緯

※令和 2 年度笠原小学校入学予定であった児童が 0 人となったことへの対応

（2）これまでの笠原小学校に関する審議会等の経緯

（3）笠原小学校児童生徒数の現状と推移

（4）教育委員会としての今後の方針（笠原小学校の統廃合について）

4. 意見交換

5. 閉会

【意見と回答の要旨】 ※「→」は当日の回答

- ① 来年度の入学予定の方は、ほとんどが鴻巣中央小学校を選ぶのか、笠原小学校を選ぶのか、わかっていたら教えてほしい。
→現時点で把握はしていない。来週、入学予定者との意見交換会を開催するので、その後要望等を伺いたい。
- ② 来週（7月15日）の対象者は。
→令和3年度入学予定の児童の保護者を対象としている。
- ③ スケジュールについて、いつ頃廃校を考えているのか。
→制度上は来年度実施も可能であるが、定例教育委員会や懇話会では、慎重にという意見や交流事業を実施してからという意見をいただいている。加えて、意見交換会等の意見を踏まえて判断したいと考えている。
- ④ 中学校の接続について、笠原小学校は鴻巣北中学校、鴻巣中央小学校は鴻巣中学校となっており、兄弟でも別れてしまうことも考えられるが。
→現状では、通学区域審議会の結果として、審議事項は妥当と決するに至らなかったとなっているが、今後は状況が変われば通学区域審議会を開催し、審議を行う。
兄弟で進学先が別れてしまうことを防ぐ事も当然考慮する。
- ⑤ コロナの状況で、笠原小学校の人数がちょうどいいと思うが、鴻巣中央小学校等はどのような対応をしているのか。
→1例として、空き教室の利用や大型テレビの利用により分散授業を実施している。
効果があるとされている、手洗いの時間を多くとったりしている。
他の学校においても、笠原小学校と同じように感染症対策を実施している。
- ⑥ 送迎について今後の方針は。高学年でも笠原小学校からなら一人で帰宅し、留守番も可能であるが、鴻巣中央小学校からでは困難である。
→今後は下校についても検討しなくてはいけないと考えている。
- ⑦ 鴻巣中央小学校に行くと、別の学校への通学ということはいじめの対象となってしまう等の懸念がある。そのようなことに関するケアや学校間交流を増やしてもらって、仲良くなった時点で一緒にいるのが良いと考える。
→懇話会でも意見をいただいているので、交流事業等を実施して、一緒になれればと考えている。

- ⑧ スケジュールについての見通しは全然ないのか。
→意見交換会や、懇話会で意見を聞きたい。
来年 4 月は現実的ではないと考えるが、早い段階でという話をいただいているため、意見交換会等が全て終わり次第、早い時期に示したい。
- ⑨ 年度途中で廃校となるのか。
→途中ではなく、年度で切り替えたいと考えている。
- ⑩ 十分な意見交換といっているが、この人数どう思うか。3 日に出した通知で、9 日は乱暴。前にも伝えたが、早く通知を出すべき。
- ⑪ 地域に話をするといっているが、何一つ地域におりてきていない。
自治会の神社で新 1 年生をお祓いする際には何人かいたので、安心してしたが、結果 0 人になったので地域からお怒りの意見をもらっている。これで説明しましたというのは困る。今日の意見交換会が成立したとは言えないのではないか。
→5、6 年を対象に意見交換会をしたという事実は残る。本日参加されていない方には議事録等を送る。まずは在学中の保護者から順番に実施し、その後、未就学、地域と話をしていく。
- ⑫ 地域の方は、学校はなくなってほしくないと思っている、自分もそう思っていたが、ここまで児童数が減るとやむを得ないと思っている。学校がなくなると活気がなくなるし、どうしたらいいかわからない。意見交換会等、間隔を空けずに早急に開催してくれれば、考えが一致してくるのではないか。
- ⑬ ジュニアシートは何歳までが付ければ良いのかわかっているのか。確認してほしい。
必要だと思う。
→確認させてもらう。
- ⑭ 兄弟など、本来一緒に通う予定の児童が別々に通うこととなり、地元が悲しんでいる。
- ⑮ 笠原小学校に入学予定の家庭は、本当に自ら鴻巣中央小学校への通学を希望したのか。
→教職員配置により保護者への確認を行ったが、誘導している事実はない。
鴻巣中央小学校に行きたいが、スクールバスを出してくれないのかと複数の保護者から言われていた。その後市として、基準を設けた上で、登校支援を導入したが、あくまでも審議会の答申に基づいた対応である。
登校支援については、実施が決まった時点で連絡しているが、これは教職員の配置に影響があるからである。
笠原小学校への入学予定者が徐々に鴻巣中央小学校への通学を希望し、最終的に全員が鴻巣中央小学校への入学を希望している。

- ⑯ 笠原地域は狭いところなので、地域の方から色々と言われてしまうという意見を聞いて、可哀想だと思った。
- ⑰ 保護者は、悩んだ末に一番は子どものことを考えて決断しているため、地元の意見もわかるが、子どもたちのことを考えてほしい。
- ⑱ バスについて、廃校となった場合も何キロという基準は残るのか。
→現状は市全体の考え方として、2キロの基準を守ってやっている。
廃校となった場合には、通学区域審議会を開いて審議が必要ではないかと考える。
- ⑲ 2キロ圏内であるが、通学路が危ない。整備はしてくれるのか。
→すぐに整備が可能とは約束できないが当然の対応と考えている。要望をあげるなど、早急に対応をしていく。
- ⑳ 通学距離について 低学年であると通学が難しいのではないか。
→何が何でも2キロで線を引いてという考えではない。今後も検討していく。
- ㉑ 今日出た意見を明日の説明会に参加される方に伝えてほしい。
→伝える。

笠原小学校 2・3・4 年生保護者との意見交換会 主な意見・質問と回答

日時：7月10日（金）午後6時30分～8時10分

場所：笠原公民館

主催：笠原小学校 PTA

参加者：17 名

出席者：笠原小学校 PTA 会長、顧問

齊藤教育部長、野本参与、清水副部長、鳥沢課長、藤平副課長、新井副主査

1. 開会

2. 挨拶（PTA 会長・教育部長）

3. 資料説明

（1）鴻巣市立小・中学校通学区域審議会後の経緯

※令和2年度笠原小学校入学予定であった児童が0人となったことへの対応

（2）これまでの笠原小学校に関する審議会等の経緯

（3）笠原小学校児童生徒数の現状と推移

（4）教育委員会としての今後の方針（笠原小学校の統廃合について）

4. 昨日（7月9日）の意見交換会での意見について

5. 意見交換

6. 閉会

【意見と回答の要旨】 ※「→」は当日の回答

① 廃校になる予定は来年度なのか。

→慎重にという意見や交流事業を実施してから統合した方が良いという意見があり、今年度ではなく、来年度以降と考えている。意見を聞いて早いうちに決定したい。

ただし、あくまで、議会の議決により決定するものである。

② 中学校との接続について、今後は通学区域審議会にて決まるのか。

→同じ小学校から、同じ中学校に上がるという考えから、通学区域審議会等を開催し、審議してもらう。例えば兄弟で別れるようなことがないように検討する。

③ 笠原小学校の廃校ありきの意見交換会という認識でよいのか。

→教育委員会として廃止の方針を決定させていただいた。その上で、意見をいただきたい。

④ 前にもこのような会議があって、複式学級をやってみても良いのではないかという意見もあったと思うが、その検討もなく決定で良いのか。

→小規模校や複式学級に関するメリットとデメリットについては、認識した上で、このままでは市内の他の学校との格差、学校運営上の課題等、デメリットが大きいと判断し、教育委員会として決断をした。

⑤ 去年から教育委員会の説明が足りず、信用できない。新入学児童だけでなく、在校生も集めて説明するべきだったのでないか。個別対応であると不安になると思う。丁寧に説明してほしい。

→不安にさせた部分は申し訳ないと思うが、騙そうとしたり、学校をなくして売ってしまうなどという考えは全くない。教育委員会の考え方は、子どもたちの将来を考えてのことだということは、理解してほしい。

⑥ 在校生の保護者には送迎等の情報が入ってこない。人づてに耳にする形になっていたので、教育委員会からの積極的な情報提供をお願いしたい。

⑦ 教育委員会からの令和 2 年度に向けた教職員配置に関する電話対応について、今後も続けるようであれば、事前に実施に関する周知をお願いしたい。また、未就学児の保護者が話をする機会も設けてあげてほしい。

⑧ 統廃合スケジュールの中で最短と最長の要因は。

→「交流事業等を実施する準備期間」と「保護者や地域の意見」が、スケジュールを決定する上で重要と考える。何年も先ということは考えていない。

- ⑨ 来年度は笠原小学校には入れさせないのか。
→笠原小学校が指定校のため、基本的には笠原小学校への入学となる。通学区域審議会での答申に基づく個別の対応により、保護者からの連絡をいただきながら、意向を確認したい。来週（7月15日）に実施する未就学児の保護者との意見交換会により、意見をいただく予定となっている。
- ⑩ 廃校までのスケジュールについて、準備期間を設けて、理解を求めていくとあるが、地域や保護者から理解を得られる方策は。
→全員の理解を得ることは難しいと思っているが、方針は決定させてもらったため、意見交換等を実施し、丁寧な説明をしていく。
- ⑪ 笠原小学校を廃校とするに至った意思決定は何があったのか。
→児童数が減少しており、1年生が0人であることが最大の要因。
児童が1人、2人いたとしても、良い教育環境という意味では、存続は難しいと考える。
- ⑫ 少なくとも一人でもいれば続いてほしいと思っていたが、廃校が決定しているならば、交流を2学期からする、合併が決まっているなら来年度から合併するなど、早めの対応をしてほしい。
- ⑬ 中学校に兄弟が行っているため、体操着や学用品など、兄弟で共有する。
どちらに行くのかははっきりしてほしい。
→中学校への接続に関しては通学区域審議会で審議し、兄弟で別々の学校に行くことのないよう、経過措置等を検討したい。
- ⑭ 交流授業の実施について、統廃合が決定してから始めるのではなく、子どものことを考えて早めに実施できないのか。
→できるだけ早く実施できるよう調整していきたい。
- ⑮ 議会での決定というが、議会はいつ開催されるのか。
→3か月に1回開催。未就学、地域の皆さんとの意見交換会を経てスケジュールを決定次第、議会へ条例の改正案を提出したいと考えているため、9月は難しく、最速でも12月の提案と考える。早めに対応したい。

- ①⑥ 保護者や地域の方向性がずっと一致しなければ、後ろ倒しになってしまうのか。それとも教育委員会で決定されるのか。
→教育委員会において廃止の方向性は出しているため、皆さんに聞きたいのは、廃止するかしないかではなく、時期的な部分を伺いたい。（最終的には教育委員会として決断する。）
- ①⑦ 保護者が来年から廃校にして鴻巣中央小学校に行きたいと言えば、鴻巣中央小学校に行けるという認識で良いか。
→大多数が来年からということであれば、意見を尊重する。ただし、交流事業等の準備期間の必要性を感じるため、話し合いの中で決めていければ良いと思っている。
- ①⑧ 話し合いの中では、なかなか発言できなかったりする方もいると思う。
子どもが通っている間に廃校というのは考えていなかったが、人数が減ってくるとやむを得ないと思っている。
最初に統廃合に関する話があった時点では、未就学であった子が、いつの間にか学年も上がっているため、慎重な意見交換は大事だとは思いますが、ゆっくりしては、最後に残されるのではないかという不安がある。
保護者や地域で意見をまとめ、方向性が決まるような会議やアンケートを実施してもらいたい。
卒業してほしかったが、早めに意見をまとめて方向性を出す必要があると思う。
どのような形でもよいので、教育委員会からの情報提供、意見をいただきたい。
→意見を踏まえ、半年や1年先ではなく、早い段階で時期を示していきたい。
- ①⑨ 鴻巣中央小学校に通うにあたっては、スクールバス等の送迎方法をしっかりと決めてほしい。
→登校支援については、今後の児童数等により変わってくると思うので、早めに決定できるようにしたい。廃校になった場合には、2キロの基準は残しつつ、下校の支援についても検討が必要と考えている。
- ②⑩ 校名や校歌、PTA等の役員について、今後方向性を示してほしい。
→現在ははっきりした方針は出していないため、他の自治体での事例を参考にしながら、検討していきたい。

- ②① 来年度以降の笠原地域の入学予定者数は。
→7月1日現在の数字で住民登録上14名。再来年以降の人数は現在資料として持っていない。また、資料にある児童数の推移に関しては、入学率を乗じているため、全員が入学するわけではない。
- ②② スクールバスについては自宅に行っているのか。子どもが歩いて集合場所まで行くのか、保護者が送ってくるのか。
→集合場所まで保護者が付き添う形で登校支援を実施している。現在はこのような対応であるが、人数によってバス等の大きさ、通れる道も変わってくるため、今後は別の方法も検討する。
- ②③ 鴻巣中央小学校に通学することと、笠原小学校に通学することで、保護者の負担についての違いはあるのか。
→現状では、(登下校の課題以外には)特にない。
- ②④ 廃校という言葉がマイナスなイメージしかいないため、統合といったような新しい学校を造り上げるといった雰囲気での議論が出来ればいいと考える。
→例えば、教職員の配置等について笠原小学校の先生を鴻巣中央小学校へ配置するなどの対応をとれば、知っている先生がいるということで、子どもたちも馴染みやすいと考える。

令和３年度笠原小学校へ入学予定の児童保護者との意見交換会 主な意見・質問と回答

日時：７月１５日（水）午後６時３０分～８時４５分

場所：笠原公民館

主催：鴻巣市教育委員会

参加者：１３名

出席者：齊藤教育部長、清水副部長、大島副部長、鳥沢課長、藤平副課長、新井副主査、
PTA 会長（鴻巣市小・中学校のあり方研究懇話会委員）

- １．開会
- ２．挨拶（教育部長）
- ３．資料説明
 - （１）これまでの笠原小学校に関する審議会等の経緯
 - （２）笠原小学校児童生徒数の現状と推移
 - （３）教育委員会としての今後の方針（笠原小学校の統廃合について）
 - （４）鴻巣市立小・中学校通学区域審議会後の経緯
※令和２年度笠原小学校入学予定であった児童が０人となったことへの対応
 - （５）入学までのスケジュールについて
- ４．在校生保護者との意見交換会での意見について
- ５．意見交換
- ６．閉会

【意見と回答の要旨】 ※「→」は当日の回答

1. 登下校の保護者の負担について、鴻巣中央小学校に通うと登校支援はあるというが、下校支援がないため、迎えに行くと仕事ができない。経済的に負担が大きくなるので考慮してほしい。

→登校支援については、現状では直線距離 2 キロ以内、集合場所まで保護者に付き添ってもらうこととなっている。

今後、状況に応じて、支援の内容についても見直すこととなる。

就労状況により、放課後児童クラブの利用が可能と考える。所得によって、利用料金も違って来るため、詳細についてはこども応援課に相談してほしい。

2. 噂で笠原小学校の廃校については聞いてはいたが、鴻巣中央小学校への通学等については考えていなかったため、来年度からの対応は難しい。

→制度上、今年度の廃校という対応は可能ではあるが、教育委員会としては、懇話会等において、スピード感を持ちつつ、慎重にといった意見等をいただいていることもあり、準備期間を設けて、子どもが早く馴染むことができるよう、交流事業等を実施してからの統廃合を考えている。

3. 廃校ありきで進んでいる話なのか。

→経緯の説明でもあったように、審議会等での検討を重ねた結果、子どもたちの教育ということを第一に教育委員会として決断させていただいた。

ただし、あくまで、議会の議決により決定するものである。

スケジュールについては、できる限り早いうちに示したい。

4. 学校の様子を知る機会が欲しい。

現実的に社会に出て 5 人しかいないといったことはないため、ある程度の集団は必要であり、そのような意味で、鴻巣中央小学校への通学は良いと思うが、通学させる上での親の負担が懸念される。

→放課後児童クラブの他、就学に関する支援については、情報提供を含めて検討していく。

5. 登校支援の集合場所について。

→二貫野、東光寺、久伊豆神社北側、小宮集会所の 4 か所であり、鴻巣中央小学校へ通学している各家庭から集まりやすい場所となっている。

現状では鴻巣中央小学校であっても 2 キロ基準をもって集合場所を設定し、実施するとは言いえないが、今後状況が変わった場合には、他の方法についても検討が必要と考える。

6. 安養寺地区の場合、今年度中に笠原小学校が廃校とならなければ、来年度は指定校が笠原小学校の他に、鴻巣北小学校も選択できるが、兄弟等がいた場合、今後、安養寺地区も杓子定規に鴻巣中央小学校へ通学するようと言われると、例えば兄弟で別々になることが危惧される。

→通学区域審議会に諮っての決定となるが、兄弟で別々になるといったことがないよう経過措置を含めて審議していただきたいと考えている。

7. 安養寺地区では若い世代が、鴻巣北小学校に通学した保護者であるため、笠原地域との繋がりがどこまであるか不透明である。

→通学区域審議会には地域の方も参加いただく予定であるため、地域の実情も踏まえて審議していただきたいと考えている。

8. 今後は下校支援について、考えていないのか。収入面を考えると、仕事を中断して迎えに行くというのは難しいと考える。

→今後、仮に児童全員が鴻巣中央小学校への通学となった場合には、全員が放課後児童クラブに行くわけではないし、いくら高学年であっても、鴻巣中央小学校から自宅まではかなりの距離がある児童もいるため、下校に関する支援についても当然検討しなくてはと考えている。

9. 現段階では来年度の下校支援はないということか。

→現段階では、来年度の笠原小学校の廃校は考えていないため、通学区域の弾力化の中で、通学に関しては保護者の責任において実施することとなっており、下校については保護者をお願いすることとなる。

仮に笠原小学校が廃校ということになった場合には、下校支援を検討しなくてはと考えている。

10. 兄弟で送ってもらえる、もらえないという事があるのか。

→（希望し、条件に合致した場合）兄弟で違った対応とすることはない。

11. 鴻巣中央小学校への保護者の送迎について、どこに車を停めるのか。

→陸上競技場の駐車場を利用していただいている。行事等の際も同様。

12. 少人数に関するメリット・デメリットがわからない等の意見があったが、わからないことは在校生の保護者の皆さんから教えてあげてほしい。
在校生の保護者の皆さんはPTA 活動を含めて、協力的で助かっている。
13. 笠原小学校は保護者が相互協力することを含めて、とても良い関係が築けており、良い学校であると思っている。新 1 年生が 0 名だったことで、現実問題どうしたら良いか迷っている。
14. このまま廃校になっていくことを考えると、入学から鴻巣中央小学校への入学を考えているが、自動車の運転に自信がないため、送迎はかなりの負担である。下校支援についても検討してほしい。
→下校支援についても、継続して検討していく。
15. 廃校については見通しを早めに示してほしい。
上の子は、笠原小学校に通い友達もいる。これから入学する下の子は、今後の児童数次第では複式学級も考えられるため、迷ってしまう。
兄弟で同じ学校に行くのか、違う学校に行くのか家庭でも結論が出ない。
様々な選択肢が考えられるため、可能な限り早くスケジュールを示してほしい。
→皆さんから意見をいただきながらスケジュールを検討しているが、保護者の方からは来年の 3 月からという意見もいただいている。
教育委員会では、早い段階でお示しできればと考えている。
16. 教育委員会としては、いつの議会で提案するのか。
→9 月議会での提案については、意見交換を含めて、様々な手続きが必要であるため、現段階で考えていない。
17. 仮に最短で 12 月議会に提案し承認を得た場合は 4 月から統廃合となるのか。
→教育委員会としては、来年度は交流事業等を実施したいと考えているため、再来年度以降を考えている。
18. 今現在、入学時から鴻巣中央小学校に通学するには直接相談するしかないのか。
地域で噂にもなってしまうため、保護者としては、地域では穏便に過ごしたい。
板挟みにはなりたくないため、早く方向性を定めてもらいたい。
→鴻巣中央小学校への入学に関しての、窓口は学務課となり直接相談していただくことになる。スケジュールについては早めに示す。

19. 通知が木曜日に郵送で送られてきた。保護者と相談の結果、本日参加した。

先週の意見交換会も1週間前の通知で、平日の午後6時半開始。参加者も少なかったと聞く。重要なことを、このような日程で開催するのは失礼だと思う。土日も会議室は空いている。審議会や一般質問において、保護者や地域住民に丁寧に対応することを言われているのに、1週間前の通知等、丁寧な対応といえない。

→当初PTA主催の意見交換会を3月に開催予定であったが、コロナウイルス感染症の拡大により、開催が見送られていた経緯があった。

その後、各会議を経て教育委員会としての決断をしたため、早めに保護者の方にはお知らせしたいと思った。なお、会議に参加できなかった場合には、内容をまとめてお知らせするとともに、窓口、電話にていつでも問い合わせを受け付ける。

在校生保護者との意見交換会については、土日が休みの方ばかりではないし、日程の検討を重ねた上での実施となった。1回目に来られなくても、2回目3回目等と続けていきたいと思ってこの日程にした。

20. 審議会等、全て傍聴しているが、審議会、議会にもスケジュールを出していないのに意見交換会を開始するのは、議会軽視と考える。

→教育委員会では笠原小学校の現状を踏まえ、6月議会以降も日々検討している。議会が終わったばかりで急ではないかという声もあるが、児童を取り巻く環境は刻一刻と変化しているため、総合的に判断して、意見交換会を実施している。

議会に対しては、今後丁寧に説明していく。

21. 文科省の通知に記載のある丁寧な議論がされていない。地域住民との意見交換会をいつやるのか。

→意見交換会においても、間隔を開けずに実施してほしいとの意見をいただいていることから、現在日程調整中のため、今月中に実施する予定である。

22. 家族と相談したが、要望として、年度途中で児童が一斉に行くことは困る。複式学級に関する勉強も議論もされていないのに間違ったスピード感だと思う。

全部の学年が卒業するまで笠原小学校を残してほしい。

22-1. 徐々に児童が減っていき、新入生に関するイベント等が体験できないのは避けたい。

下級生との触れ合いということも大切であると考えているため、徐々にではなく、下に下級生がいるうちに、早めにスケジュールを示してほしい。

→教育委員会としては、徐々に児童が減っていく方法ではなく、一定期間で線引きし、その時点での6年生を見送って、一斉に鴻巣中央小学校へと考えている。

23. 校長がこのような意見交換会の開催について知らないといっている。

→校長とは相談の上、日程を決定した。意見交換会後についても、PTA 会長と校長で連携をとっている。

24. 1 年生の保護者に対し、勧誘していないといっているが、現実が違う。保護者は勧誘されたといっている。2 年生の保護者にも連絡している。審議会の答申とは真逆のことをやっているため許せない。地域は憤慨している。

→勧誘は行っていない。経緯のところでも説明させていただいた通り、鴻巣中央小学校に行きたいけれども、スクールバスは出ないのかという声をいただき、その後導入となったが、現在の 2 年生についても複式学級の対象となっているため、教職員の配置についての確認を取らせていただいた。

先日の意見交換会では 2～4 年生の保護者を対象に実施したが、誘導したといった声はいただいていない。

とにかく子どもたちの事を第一に考えた決断である。

25. 議事録を開示してほしい。または情報提供してほしい。

→公開・提供方法について検討する。

26. 通学区域の弾力化の「その他、教育上必要と思われる場合」の「児童生徒の教育を受ける機会を保障するため（要協議）」が不明確である。

→今回、鴻巣中央小学校への通学に関しては、妥当と決するに至らなかったため、付帯意見に基づく笠原地域に限った対応となっている。弾力化の基準とは異なる。

安養寺地区については基準に載っていて、鴻巣中央小学校については、個別の対応に限っている。

笠原小学校の適正配置等に関する自治会長との意見交換会 主な意見・質問と回答

日時：7月25日（土） 午後5時00分～午後6時00分

場所：笠原公民館

主催：鴻巣市教育委員会

参加者：14名/18名

出席者：齊藤教育部長、野本参与、清水副部長、鳥沢課長、藤平副課長、新井副主査

1 開 会

2 挨拶（教育部長）

3 資料説明

- （1）これまでの笠原小学校に関する審議会等の経緯
- （2）笠原小学校児童生徒数の現状と推移
- （3）教育委員会としての今後の方針（笠原小学校の統廃合について）
- （5）統廃合に関するスケジュール

4 在校生保護者、令和3年度入学予定の児童保護者との意見交換会での意見について

5 意見交換

6 閉 会

【意見と回答の要旨】 ※「→」は当日の回答

1. 教育委員会としては、統廃合について、いつ頃を考えているのか。
→制度上は来年度実施も可能であるが、定例教育委員会や懇話会では、慎重にという意見や交流事業を実施してからという意見をいただいている。加えて、意見交換会等の意見を踏まえて判断したいと考えている。
2. 小学校は歩いて行ける範囲にあるものと考えている。
→学校の適正規模を考えると、1 学年 2 クラス以上が良いのではないかという国の基準もある中で、笠原小学校が仮に統合するとして、1 学年 2 クラス編成を行うとすると、鴻巣中央小学校に限定されるのではないかと考えている。
現在は、ワゴン車による登校支援を実施しているが、今後も検討を継続していく。
3. 意見交換会について廃校が決まった中で、業務の一つとして実施しているのではないかと考えてしまう。
→平成 27 年からこのような検討を重ねてきており、良い教育環境を提供することが教育委員会の責務であると考えたときに、現実的に 1 年生が 0 人であるという状況、また児童数の推移をみても、今後より小規模化していく環境では、様々な活動に制約が生じ、市内の他校との格差も広がっていくと予想されることから、廃止を決定させてもらった。
あくまで、教育委員会としての決定であり、正式には鴻巣市議会での承認をいただくことになる。
4. 各小学校において生じる格差とは何か。
→極端に少ない人数であると、集団で実施するスポーツ、例えばバレーボールができなかったり、グループに分かれて学習、研究し、班ごとに意見を発表しあうなど、色々な考え方に触れ合う機会を作るのが難しいと考える。

5. 今の通学風景を見ると、一列で話もせず歩いていくのは違和感がある。
文科省が効率化や適正配置等、綺麗ごとを並べたものに対して、教育委員会は地元を守るものだと思う。
文科省に対抗する必要があるのではないか。
学校の存続のために、保育園や幼稚園と小学校を組み合わせたり、場合によっては、お年寄りとのコミュニケーション、遊びも含めて、学校のあり方を考えていくことが必要ではないか。笠原小を守り育てる会の意見にも書いた。
始めから効率化により小学校を減らしていくのではなく、遊びながら通学できるような学校であってほしい。
→今年度の児童の保護者が全員鴻巣中央小学校を希望されたということは保護者の意思表示であり、重く受け止めている。このことから、笠原小学校を廃止して、鴻巣中央小学校と統合することが、現在考えられる最善ではないかと考えている。
6. 保護者が鴻巣中央小学校を選択したというのは、教育委員会からの誘導があったと聞くがどうなのか。
→1月に入学通知書を郵送した。人数が5人と少なかったため、複式学級になる可能性もあり、教職員配置に影響がでることから保護者への確認を行ったが、前段の説明として通学区域は笠原小学校ということを伝えた上で、確認しており、誘導している事実はない。
鴻巣中央小学校に行きたいが、スクールバスを出してくれないのかと複数の保護者から言われていた。その後市として、基準を設けた上で、登校支援を導入したが、あくまでも審議会の答申に基づいた対応である。下校については、放課後児童クラブを活用するなど保護者の責任において対応していただいている。
7. 効率化も良いと思うが、教育というのはそれではいけないと思う。
→クラス替えが可能となる人数であることなど、子どもたちの教育環境ということを第一に、鴻巣中央小学校との統合を考えているため、効率化という考えはない。
8. スケジュール表について、跡地活用とあるが、廃校が決まってないのに、民間業者の募集をしているということを耳にするが、その事実は。
→事実は全くない。民間のノウハウを活用して、公民館や生涯学習センターとの運営をしていくことという事例はあるが、あくまで手法であり、学校を売ってしまうなどという考えは全くない。教育委員会だけでなく市全体として活用を検討してということをお手元のスケジュールに併記させてもらっている。

9. 児童の推移をみると、共和小等も人数が少ないと思うが、検討しているのか。市全体として検討する基準は。

→平成 27 年の適正配置の審議会の答申においては、統廃合等については時期尚早という答申をいただいている。ただ今後も、例えば、中学校との接続等については見直すよう検討を継続することなどの意見をいただいております。市全体としては、鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会や鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会で検討していく。

笠原小学校については 1 年生が 0 人に加え、人数が極端に少なくなることが予想されることからこのような場を設けさせてもらっている。

10. 共和小は川里中学校しか選択肢がないが、笠原小学校は鴻巣中学校、鴻巣北中学校と選択肢がある。バランスは。笠原小学校は鴻巣中学なのか。鴻巣北中学校ではないのか。

→川里地域は 3 小学校が一緒になってという検討がなされたが、慎重にやっていると考えている。

中学校の接続に関しては、小学校からの進学先が地域によって分かれたいようにと考えている。安養寺地区については、鴻巣北中学校に進学しているため、強制的に鴻巣中学校へ進学させるということではなく、経過措置を見ながら、兄弟等に配慮し選択できるよう考えている。

11. 笠原小学校は児童数が少なすぎて授業として成り立っていないのではないかと考えており、統合もやむを得ないと思う。ここにいる地域の努力も多少足りなかったところもあるかと思うが、農業地区でありどうしようもないとも思っている。

そのような中で、どこかの会が企画した意見聴取の機会に、工業団地の誘致等、意見として提出したが全く回答はなかったため、なぜ勝手なことをしているのだろうと思った。

このような児童数となると、学校として成り立っていないのではないかと、教職員の配置も極端に少なくなるのではないかと心配している。

市全体として人口が減少しているため、行政には学校だけではなくて、人口を増やすための努力をしてほしい。

12. 登下校ではなく、登校のみの支援なのか。

→現在は通学区域審議会の答申にあるように、弾力的な運用をしている。

登校支援のみであり、下校支援はしていない。来年以降も遠距離通学を強いられている児童の交通手段の確保や下校の支援等も検討していかななくてはと考えている。

廃校になることが決定した段階では、下校支援及び 2 キロ基準についても柔軟に対応していこうと考えている。

13. 地域の人間は廃校という言葉はきつい言葉に感じるため、「統合」等を使ってほしい。
→廃校という言葉は内部でもきつい言葉であると認識している。
ただ、条例を出す場合には「廃止」という言葉を使わせていただく。
現段階では鴻巣中央小学校に編入という言葉を使っているが、今後はこの言葉は変わっていくと考えられる。
14. 鴻巣中央小学校の受け止め方は。
→鴻巣中央小学校、笠原小学校の両校長には話をしており、交流事業等を実施し、児童が早くなじめるようにと考えている。
15. 地域の方は、子どもたちを地域で育てたいと思っており、協力し合いながら学校を盛り立てて、笠原小学校で育ったということを人生の宝にしてほしいと思っている。
地域の中には守る会というのがあり、存続を願っており、総会を開催した結果、笠原小学校は残していきたいということになった。
そのような方たちがいることを前提に、そのような方たちへの説明、また、保護者に対する説明を踏まえてスケジュールを検討してほしい。
笠原地域が2分しないように取り組んでもらいたい。
→地域の方に意見をいただくことは重要と考えている。
コロナ禍においては、不特定多数の方を集めることは控えている。
なかなか集まることができないが、今回はアンケートのような形をとらせてもらい、その後、年内どこかで、コロナの状況を見ながら開催できればと考える
意見を聞きながら取り組んでいければと考えている。

笠原小学校に関する今後の方針について
※統廃合スケジュール（案）

年	月 次	内 容
令和 2 年	9月上旬	教育部の方針・統廃合スケジュール（案） 決定
	9月10日	【第9回定例教育委員会】 教育部の方針・統廃合スケジュール（案）を提案・報告 ※以降、承認いただいた場合
	9月11日	【第3回鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会】 教育部の方針・統廃合スケジュール（案）について意見交換
	9月24日	【9月定例会 全員協議会】 鴻巣市立学校設置及び管理条例一部改正（案）を12月議会へ提案することについて報告
	10月～12月	笠原小学校在校生保護者、地域等への情報提供 （説明会、意見交換会等）
	10月	【第10回定例教育委員会】 鴻巣市立学校設置及び管理条例一部改正（案）を提案 ※以降承認いただいた場合
	12月	【12月定例会】 鴻巣市立学校設置及び管理条例一部改正（案）を提案 ※以降、承認いただいた場合
令和 3 年	1月～	1. 統廃合準備委員会（仮）の発足 2. 埼玉県教育委員会へ笠原小学校廃止届提出 3. 【通学区域審議会】 通学区域の変更 （鴻巣市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則改正） ①笠原小学校から鴻巣中央小学校へ ②鴻巣北中学校から鴻巣中学校へ
令和 4 年	3月	笠原小学校 閉校式典
	4月	鴻巣中央小学校との統合